



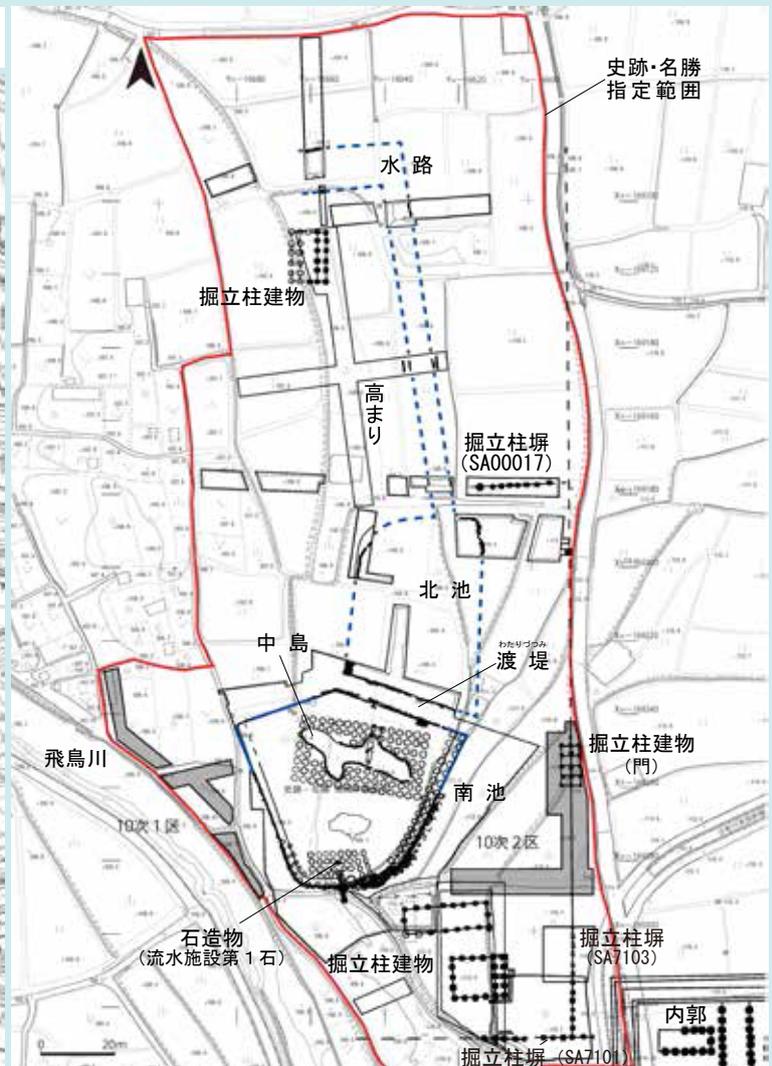
調査区全景 (南東から)



調査区全景 (南から)



飛鳥京跡苑池と周辺の遺跡 1/1,000「史跡・名勝 飛鳥京跡苑池」



飛鳥京跡苑池全体図 1/1,000「史跡・名勝 飛鳥京跡苑池」

はじめに

史跡・名勝飛鳥京跡苑池は、飛鳥時代の庭園遺跡です。平成11年(1999)におこなった発掘調査で、はじめてその存在が明らかとなりました。飛鳥京跡苑池は、これまでの発掘調査で、南北2つの池(南池・北池)と渡堤、水路、掘立柱建物で構成されることが明らかとなっています。その範囲は、南北約280m、東西約100mにおよびます。

当研究所では、平成22年度(2010)から史跡・名勝飛鳥京跡苑池保存整備活用事業に伴い、継続的に発掘調査をおこなっています。

調査の内容

発掘調査は、南池の西側(1区)と東側(2区)に調査区を設けておこないました。調査の結果、1区では中世以降の飛鳥川による河川堆積層、2区では掘立柱建物を検出しました。

掘立柱建物 調査区北東部で検出した総柱建物です。その規模は、南北4間(約10.8m)、東西2間(約5.4m)です。解体時に、柱はすべて抜き取られています。

掘立柱塼(SA7103) 調査区東部で検出しました。先述した掘立柱建物に取り付きます。過去の調査成果をふまえると、総延長130m以上になります。なお、掘立柱建物から南側にあったと想定される柱穴の多くは、後世の土地利用により削平されたと考えられます。

まとめ

今回の調査によって、飛鳥京跡苑池に伴う新たな掘立柱建物を検出しました。検出した掘立柱建物は、飛鳥京跡苑池における位置関係から考えて、苑池の出入り口である門となる可能性が考えられます。

このように、飛鳥京跡苑池の区画施設である門の位置とその構造が明らかとなったことは、飛鳥京跡苑池の全体像を考える上で、非常に重要な成果といえます。